

令和6年度 教育委員会視察

令和6年11月13・14日
福井県 義務教育学校
石川県加賀市

目次



1. 福井県

「福井大学教育学部附属義務教育学校」

- ①学校の概要・特徴等
- ②探究学習・協働研究
- ③グローバル教育
- ④オープンスペース、教室・教具等
- ⑤職員室のフリーアドレス制
- ⑥公開授業の様子

2. 石川県加賀市

「加賀市立金明小学校」「加賀市教育委員会」

子どもに学びを委ねる授業
BE THE PLAYER



1.「福井大学教育学部附属義務教育学校」

① 学校の概要・特徴等

校訓：自主協同 教育目標：未来を創る自己の確立

- ・改称、統合を経て、2017年に義務教育学校として開校
- ・2023年 後期課程校舎改修
- ・前期課程（1～6年生 各2クラス） 後期課程（7～9年生 各3クラス） 計716名

目指す子ども像

Image of the Child

前期課程

Elementary Department

自立
Independence

自ら学び、よりよく問題を解決する子

Students who learn by themselves, and can solve problems in a better way

協働
Collaboration

つながりを大切に、高め合う子

Students who value relationships and complement each other to improve

貢献
Contribution

集団の一員として、責任と自覚を持って行動できる子

Students who can act responsibly with consciousness of others when placed in a group

後期課程

Junior High Department

高い志を持って、主体的に学び続ける子

Students who continue to learn by themselves, and have high aspirations

対話を通じて、他者と共に新たな価値を生み出す子

Students who can create new things and values through dialogues with peers

民主社会の担い手としての自覚を持って行動できる子

Students with good citizenship and awareness of their roles in a democratic society

1.「福井大学教育学部附属義務教育学校」

② 探究学習・協働研究

- ・ロングスパンの探究的な学びを全教科でデザイン
- ・教科、社会創生プロジェクトにおいて、他学年、および他ステージの子どもとの交流活動、合同授業をデザイン
- ・全教科、領域で実施し、深い理解を伴った生きて働く知を構成
- ・社会創生プロジェクトでは、総合的な学習と特別活動を合科した領域として、子どもたちの発意をもとに社会とつながりながら学んでいく



[HPより]



[HPより]



【研究組織】

「探究」「コミュニケーション」
「コラボレーション」を意識

☞世代継承サイクル

☞子どもの学びを支える「教師の学び」

1.「福井大学教育学部附属義務教育学校」

③ グローバル教育

世界と自分をつなぐグローバル教育の推進

Global education that connects the world and oneself.

- 1年生から外国語活動を実施

Foreign language activities are conducted starting from the 1st grade.

- 海外教員の授業参加により、外国語や外国文化に触れる機会を拡充

Expanding opportunities to experience foreign languages and cultures through the participation of overseas teachers in classroom instruction.



〔HPより〕



〔HPより〕



〔HPより〕

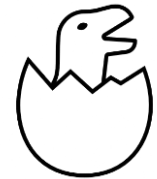


・ 福井大学を訪れる、留学生や実習生と日常的に交流。

1.「福井大学教育学部附属義務教育学校」

④ オープンスペース・教室・教具等

- ・新しく後期課程の校舎を改装
- ・移動できる机・ホワイトボード・プロジェクター等教具の検討、配備
- ・4つのプロジェクトルームを設置〔内、2つは主に理科室〕
- ・二つの理科室には異なる機能（活用目的）を持たせる。授業を実施しやすい面のほかに、子どもたちが自由に使い、動かし、使いやすいことを念頭に配備



★4つの
プロジェクトルーム



★簡単に移動
できる可動式
の机・椅子



1.「福井大学教育学部附属義務教育学校」

④ オープンスペース・教室・教具等

- ・各クラスの教室は、すべて教室と廊下の壁をなくしたオープン型教室。
- ・廊下部分は、個人用ロッカーのほかに、多目的スペースとして学習空間に活用。



★共用部分には
生徒の作品を展示



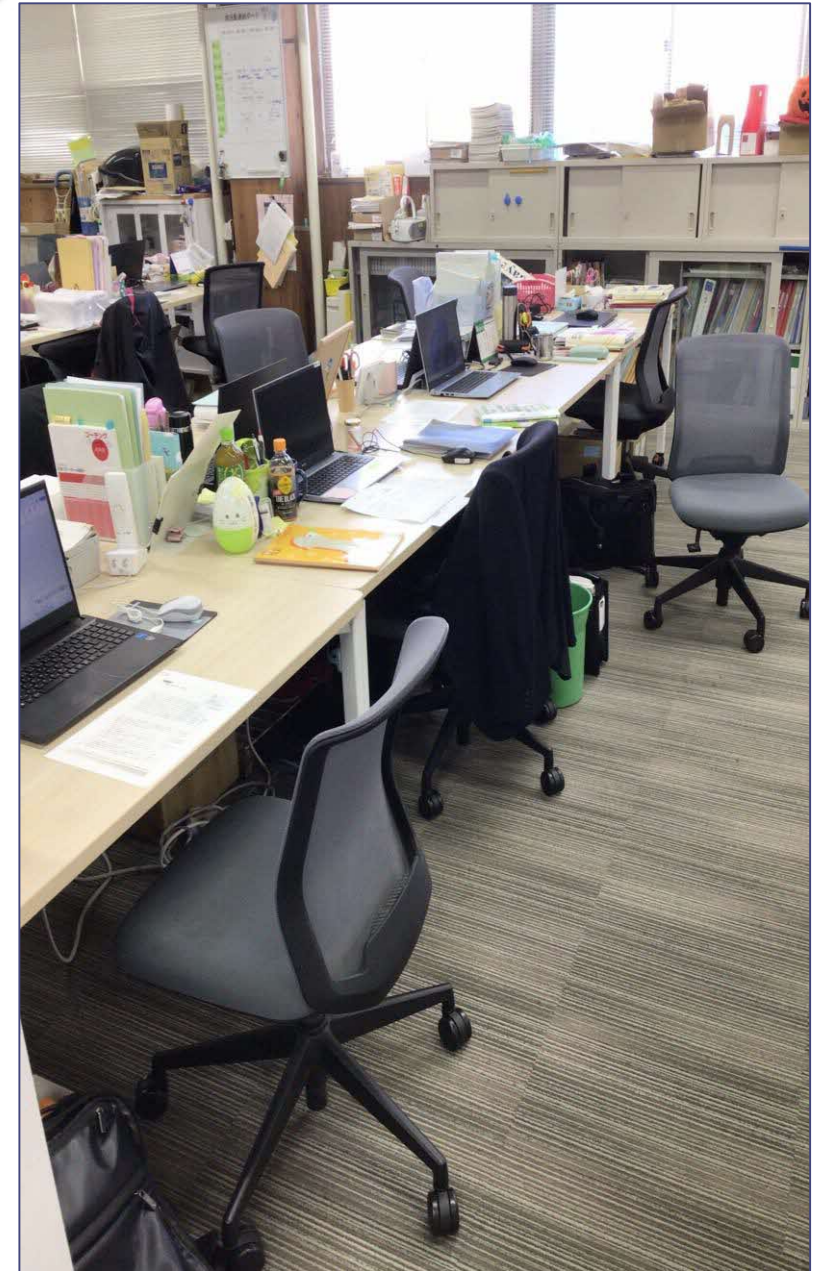
1.「福井大学教育学部附属義務教育学校」

⑤ 職員室のフリーアドレス制

- ・職員室は、フリーアドレス制を導入。荷物は基本的に個人用ロッカーで保管。
- ・1日ごとではなく、定期的に席替えをする形のフリーアドレス。
- ・教科、職種を越えた座席配置。
- ・多種多様な視点から、日常的に交流ができ、アイデアが生まれる。



★荷物は個人用
ロッカーで保管



1.「福井大学教育学部附属義務教育学校」

⑥ 公開授業の様子(8年生の国語[走れメロス])

- ・他教科の職員も交えて本時の展開を検討。
- ・授業を子どもたちと創っていく⇒プロセスを大切に!
- ・話し合いに際して⇒どのように教師が、どのような視点で「見取って」いくかを他校の先生方と語り合うことが当日のポイント
- ・研究協議会は、60分間以下の2点を考える時間に使用。
「子どもたちの学びの姿について」「授業のあり方について」



2. 石川県加賀市

「加賀市立金明小学校」

子どもに学びを委ねる授業

「加賀市教育委員会」

BE THE PLAYER



2.「加賀市立金明小学校」

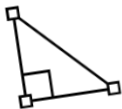
子どもに学びを委ねる授業

- ◇石川県加賀市の加賀温泉駅から北部に約5キロ地点に位置する、四方を自然で囲まれた小学校。
- ◇全校児童93人。すべて単学級。
- ◇教職員計24人で学校を支える。



- ・加賀市教育委員会が掲げる「BE THE PLAYER」の理念のもと、教師主導の授業のみから脱却し、「子どもに学びを委ねる」授業展開を意識。
- ・研究テーマは算数の研究推進。

- ・本時のゴールと、到達ラインを共有。
- ・子どもたちは、この時間をどのような時間配分で、どのように取り組んでいくかを、まず自分で計画する。
- ・方法、場所、誰と一緒に取り組む、もしくは一人で考える等を、自由に選択することができる。



2.「加賀市教育委員会」

子どもに学びを委ねる授業

【参観後の交流会にて】〔島谷教育長より〕

- ・各学校で、それぞれこだわりをもって研究を進めてくれている。子どもに学びを委ねる時間があるかどうかが大切。
- ・まさに、学びは相似形。
- ・市教委は伴走支援に徹する。地域によって子どもたちの実態はかなり違うため、市教委も試行錯誤しながら学校と、ともに悩み、取り組んでいるところである。



加賀市の教育が大きく変わります

子どもの「今」も「未来」も幸せに
well-beingを実現する学びの改革

自分で考え
動く 生み出す
そして
社会を変える

BE THE PLAYER

自分で考え
動く 生み出す
そして社会を変える

加賀市 学校教育ビジョン

教室には多様な子どもが集まっています

子どもの多様化が進んでおり、下記のように数字として表れる子ども以外にも、授業の理解度に関がなかったり、学びやすい方法をそれぞれ持ったりと、子どもはみんな違います。

発達障害の可能性がある子ども	家にある本が少ない(25冊以下)子ども
3.6人(10.4%)	10.4人(29.8%)

特異な才能(IQ130以上)のある子ども	家で日本語をあまり話さない子ども
0.8人(2.3%)	1.0人(2.9%)

不登校	不登校傾向
0.5人(1.3%)	4.1人(11.8%)

※市で日本語をあまり話さない子どもは、家で日本語を話さない子どもと区別していません。正確な人数は不明です。

※市で日本語を話さない子どもは、家で日本語を話さない子どもと区別していません。正確な人数は不明です。

※市で日本語を話さない子どもは、家で日本語を話さない子どもと区別していません。正確な人数は不明です。

未来は自分で創る

多様な人々と意見交換し、企業、地域、大学など様々なバックグラウンドを持つ大人たちと一緒に学び、実社会・ホンモノに触れ、探究する。問いを立て、課題解決をする学びを進めます。

小中一貫型 加賀STEAM教育プログラムの実施

加賀市の強みであるプログラミングを生かして、小中9年一貫型のSTEAM教育プログラムに刷新します。

- 1 課題発見
- 2 課題・探究
- 3 実践・試行錯誤
- 4 課題解決

横立中学校のSTEAM学習のまとめです。プレゼンテーションの様子はこちら

STEAM教育とは5つの分野の横断的な学びです。単に理数やテクノロジーの学びだけでなく、分野的にとらえられず、創造性や問題解決に挑戦していく探究型の学習です。AIやテクノロジーの発展を見据え、新しい教育として、注目されています。

学びを変える

教師による一方の授業スタイルは、異なる一人ひとりに合う学びを届けることには限界があります。一人一台のパソコンをフル活用して、個々のスピードに合わせて、自分のペースで自分から学ぶ。そして沢山の人と対話して、助け合って共に学ぶ。教室の空間デザインも工夫し、好奇心と夢中であふれる。もっと自由にクリエイティブな教室へ。「そえる」教育から一人ひとりを「伸ばす」教育へと変わっていきます。

今までは…

「みんな一緒に 同じことを 同じ方法で」

これからは…

「自分のペースで自分で学ぶ」「学び合って、助け合って、共に学ぶ」

誰一人取り残さない

不登校の子どもは年々増加し、10人に1人以上の小中学生が「学校に行けない・行きたくない」という状況です。誰一人取り残さず、学びが広がるような不登校支援の新たな仕組みを作ります。また、増加している発達支援が必要な子どもにとって、よりよい教育環境・支援につなげるため、新たに大学や専門機関との連携を始めます。

教育総合支援センター 移転・リニューアル

教育総合支援センターを旧三木小学校に移転し、地域の大人たちと一緒に学校になじみやすい子どもたちが安心して過ごせる場所を作ります。また、不登校支援の拠点として機能強化し、全面リニューアルします。

学校内サポート ルームの設置

「教室に行くのがしんどい」そう思ったとき、教室以外で過ごせる場所、学べる場所を学校内に設置し、早期の支援につなげます。

地域と一緒に

加賀市の強みである地域の力を生かして、地域と一緒に子どもを育てる環境づくりを進めます。

コミュニティスクールへ

学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に学校や子どもを支えていく仕組みであるコミュニティスクールに全校移行します。

中学校部活動の地域移行

2023～2025 年度を「改善推進期間」と位置づけ、早期に地域移行の実現を目指すという国の方針のもと、加賀市でも土日の部活動から段階的に地域移行を進め、地域と一緒に子どもたちの活動の場を作っていきます。

2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
部活動移行	部活動移行	部活動移行	部活動移行

学校・保護者間の連絡手段のデジタル化

学校からの情報発信やアンケートの実施、家庭からの欠席連絡などを迅速・確実に行うため、アプリを導入し、双方の利便性を高めます。

保護者・市民向けの教育講演会・広報

新しい教育への理解を進めるため、講演会の実施や SNS 等を通じた情報発信、教育改革の進捗の広報を進めます。

2.「加賀市教育委員会」

【STEAMプログラム】

- ・人口減少、地方創生等、答えのない問いがあふれている「今」そして子どもたちの「未来」を見据えた教育。
- ・加賀市独自のカリキュラム。
- ・本質的な問題を発見し、創造的に課題解決に挑んでいく探究型の学習。

加賀STEAMプログラム

人口減少や地方創生など、今の大人たちが経験していない、答えのない問いがあふれている「今」、そしてますますその傾向が強まる子どもたちの「未来」。

そのときに鍵になるのは、常識を疑い、問い続け、本質的な問題を発見し、創造的に課題解決する力。

加賀STEAMプログラムは、そんな力を育てる加賀市独自のカリキュラムです。

加賀STEAMプログラムでは、テクノロジーを活用する場面を沢山用意しています。テクノロジーの進化を他人事せずに体感しながら、課題解決の幅を広げていきます。子どもたちの好奇心であふれるワクワクするようなSTEAMの時間を子どもたちと一緒に創っていきます。

STEAMってなに？

5つの分野の頭文字をとった造語です。単に理数やテクノロジーの学びだけでなく、分野の枠にとらわれず、創造性や発想力を組み合わせ、課題解決に挑んでいく探究型の学習です。AIやテクノロジーの進展を見据えた新しい教育として、注目されています。

2025年度から大学入試はこんなに変わる！

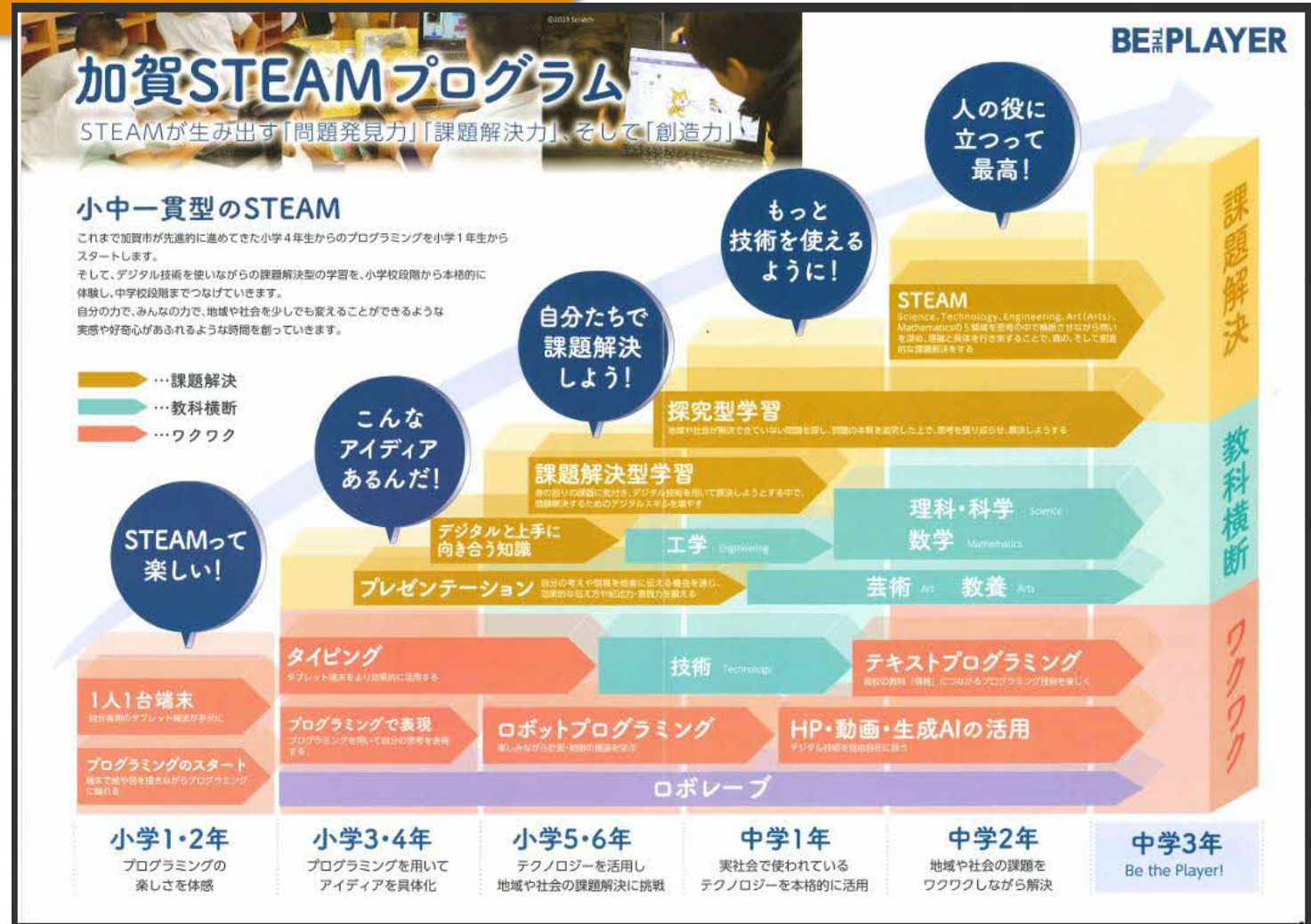
大きな変革は、資料1(情報)の項目です。また、国語の追加問題は、資料2(国語)を参考し、実用的な文章が活用される予定です。いずれも、テクノロジーの理解や、教科横断的に学ぶSTEAMが活かされます。

未来は自分で創る。

BE THE PLAYER

加賀市教育委員会 学校指導課 | 〒922-8022 石川県加賀市大野町2-41 | 電話: TEL 761-72-7886

加賀STEAMプログラム



- ・小学4年生からのプログラミングを小学1年生からスタート。
- ・「ワクワク」「教科横断」「課題解決」の3つの柱。

2.「加賀市教育委員会」

【学校部活動改革プラン】

- ・部活動について、子どもが自ら多様な形を「選択できる」環境を作っていく。
- ・学校部活動の割合を段階的に減らしていき、「ALL加賀」で支えていく。
- ・「多様な人と関わる」+「専門性の追求」をめざし、「地域クラブ」の開設」を順次進めていく。

FAQ

よくあるご質問

Q 来年度すぐに、地域クラブに参加できるようになるの？

A 夏頃から順次開設される予定です。2024年度は、中学校3年生が対象で、チームの代表者となるインストラクターが地域クラブ化が始まるイメージです。

Q 大会には学校と地域クラブ、どちらで参加することになるの？

A 現在、中体連の大会は、学校でも地域クラブでもどちらの参加も可能となっています。種目によって状況が異なりますが、大会参加を「学校」か「地域クラブ」を選択した上で参加することになります。

Q 地域クラブは必ず入らないといけないの？

A 参加する、参加しないは選択になります。参加する場合、学校の施設や用具は提供できないです。異なる種目でも自由に選択することが可能です。原則1年間は同じ地域クラブに参加することになります。

Q 文化部はどうなるの？

A 来年度は、吹奏楽部など文化系の地域クラブ開設の準備ができていますが、他の開設しているスポーツクラブと異なる地域クラブに参加することは可能です。

Q 送迎や利用料はどうなるの？

A 大会申し込みがまだですが、活動場所までの送迎や保護者の負担に協力したいという方は、地域クラブの開設は、できるだけ負担が最小限となるよう検討しています。詳細が決まり次第、公表します。

BE THE PLAYER

自分で考え
動く 生み出す
そして社会を変える

ver1. 2024. 1

保護者・子どもたちのアンケート結果

他の学校の児童・生徒と、文化・スポーツ活動と一緒に活動してみたいか？

小学生の75%、中学生の60%は他校の子どもたちと活動したい

	小学生	中学生
活動したい	36.3%	37.4%
どちらかといえばやってみたい	36.3%	37.4%
どちらかといえばやらない	9.3%	4.4%
やらない	12.6%	12.6%

今日の部活動の課題や不満なところは？

課題	割合
① 課題や不満はない	36.0%
② 運動の楽しさや面白さ	22.5%
③ 部員数が少ない	17.7%
④ 交通や食事・後援との関係やチームワークが悪い	15.6%
⑤ 練習や試合のレベルが低すぎる(専門的な指導をしてほしい)	11.1%

どんな文化・スポーツ活動なら、より満足できると感じますか？

活動	割合
① より専門的・丁寧な指導	61.7%
② やりたい種目が選択できる	45.9%
③ 運動が楽しくなるような指導	39.0%
④ 他校の交流ができる	34.4%
⑤ 運動や文化にこだわらず気軽に楽しめる	23.9%

加賀市
学校部活動改革プラン

加賀市教育委員会 学校指導課 | TEL 0762-22-8888 FAX 0762-22-1000

加賀市 学校部活動改革プラン

加賀市の 学校部活動 が変わっていきます

部活動でも「BE THE PLAYER」～自分で考え、動き、生み出せる環境を作る～

キーワード

#選択できる

#多様な人と関わる

#専門性の追求

#ALL加賀

「学校部活動は地域へ移行する」という国全体の流れの中、子どもや保護者からのアンケート結果も踏まえ、加賀市では、部活動について子どもが自ら多様な形を「選択できる」環境を作っていきます。その中で、他校の生徒など「多様な人と関わる」ことができ、そして「専門性の追求」もできるよう、「地域クラブ」の開設を順次進めていきます。そして、学校部活動の割合を段階的に減らしていき、「ALL加賀」で子どもたちの運動や文化活動を支えていきます。

※地域クラブ：地域の運営団体・実施団体による地域スポーツクラブ及び地域文化クラブ

加賀市が目指す方向性

将来的には、学校部活動はなくなり、平日・休日ともに、地域クラブでの活動を目指します

2025年度～
休日に開設する地域クラブの対象種目や文化部活動にも拡大していきます

STEP 01

STEP 02

STEP 03

加賀市が目指す方向性

平日・休日のどちらも、地域クラブで活動できる種目を増やします

地域クラブ

学校部活動

地域クラブ

STEP 01 学校部活動は平日のみ、休日は地域クラブで活動

学校部活動や地域クラブは選択制であり入っても入らなくてもOK。平日は、これまでどおり学校で部活動を実施し、土日や休日などの休日は、地域クラブで活動ができます。地域クラブに入る場合、学校部活動と同じ種目でも、違う種目にトライすることも可能です。地域クラブは、加賀市内の他校の生徒と合同で活動します。

2024年度夏頃～

月火水木金土日 今

学校部活動

地域クラブ

例えばこんなイメージです

①野球

②野球

③テニス

④陸上

⑤陸上

⑥STEAM

競技力を高めたい！

違うスポーツもしたいな！

スポーツ以外にも楽しみたい！

※大会前などは、休日であっても、部活によっては学校で部活動として活動する場合もあります。
※現在、学校にあるすべての部活動について、休日の地域クラブが開設されるわけではありませんが、次年度以降順次、開設する地域クラブを増やしていきます。
※学校がこれまで社会体育として認めてきた競技団体／クラブの活動の扱いはこれまでと同様です。

※開設予定のクラブは今後変更もありえます／来年度の地域クラブの開設時期は各クラブによって異なります／活動開始時期、活動日時、活動場所、利用料などの詳細は、決まり次第公表します。

2024年度夏頃 開設予定の地域クラブ

バスケットクラブ

野球クラブ

陸上クラブ

ソフトボールクラブ

バレーボールクラブ

卓球クラブ

ソフトテニスクラブ

STEAMクラブ

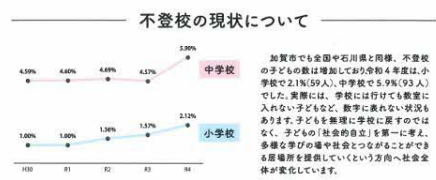
新たに立ち上げる予定のクラブです。
プロジェクトや探究活動などを行います

- ・小学5年生～中学3年生とその保護者へのアンケート結果によると、小学生の75%、中学生の60%は、他校の子どもたちと活動したいと回答している。

2.「加賀市教育委員会」

【不登校支援プラン】

- ・全国や石川県と同様、不登校の子どもが増加している。
- ・加賀市学校教育ビジョンがめざすのは、「そろえる」教育から「伸ばす」教育。
- ・子どもが学校に合わせるのではなく、学校が変わっていく。



- FAQ
- Q 学校はしんどいけれど、教室に入ることには抵抗があります。教室ではないところで登校できますか？
A 教室の他にスクールサポートルーム（SSR）があります（一部小規模校を除く）。担任の先生や教育相談の先生にご相談ください。
 - Q 最近、子どもが学校へ行きなくなりました。どうしたらいいですか？
A まずは、担任の先生や教育相談の先生にご相談ください。先生に相談しづらい場合は、教育総合支援センターチャット相談「ブリッジ」でもご相談いただけます。
 - Q チャット相談「ブリッジ」に相談したら、相談している内容が学校にも伝わってしまいますか？
A 相談内容は学校とは共有しません。ただし、子どもの安全に関わる事案については、学校や関係機関と共有する場合があります。
 - Q 学校に行けておらず、今後の学習の遅れや進路が心配です。オンラインで授業に参加は可能ですか？
A 担任の先生や教育相談の先生に相談していただければ、授業によってはオンラインで参加や授業をつづけることもできます（画面オフでもOK）。
 - Q 「Being（いのちの教室）」が遠く、遠征ができません。他にも学校に行けない子どもが行ける場所がありますか？
A 市内にある児童センターでは、子どもたちの居場所としても受け入れます。今後は民間施設なども連携し、子どもたちの居場所を増やしていく予定です。
 - Q 学校と学校外の居場所は、行った方がいいですか？
A 可能です。お子さんの状況やご希望に合わせて柔軟に行き来できます。

自分一人で考え、動く、生み出す、そして社会を変える

BE THE PLAYER

加賀市 不登校支援プラン

加賀市
不登校支援
プラン

加賀市は多様な学び場や居場所を作っていきます どこからでも どこにいても BE THE PLAYER

近年、学校に気持ちが向かなくなる子どもたちが増えています。要因はさまざまですが、誰にでも起こりうることです。「加賀市学校教育ビジョン」が目指すのは「そろえる」教育から「伸ばす」教育。子どもが学校に合わせるのではなく、学校が変わっていく、そして、多様な学び場や居場所からも、子どもたちを社会と未来につなげていきます。

自分で考え、動く、生み出す、そして社会を変える

BE THE PLAYER



- ・「学校内の相談先・居場所」「学校内外をつなぐ相談先」「学校外の居場所」をわかりやすく提示。
- ・どこからでも、どこにいても、BE THE PLAYER



令和6年度 教育委員会視察

令和6年11月13・14日
福井県 義務教育学校
石川県加賀市